

つきたい力

主体的に考えを深める力

取組みの概要・ポイント

- ・教科横断的な視点を取り入れ、複数の他教科の知識をつなげて考えることで、より深い学びとなることをめざした。
- ・学校図書館の活用では、2つのポイント（①「図書館資料・学校図書館」を使う必然性② ICTとのベストミックス）を意識して取り組んだ。

具体的な取組みの内容

「学校図書館を活用した授業づくり」

- 【学校図書館を活用した言語能力・情報活用能力を育む授業づくり】の提案
学校図書館を活用して言語能力や情報活用能力を育成するため、授業における図書館資料と1人1台端末の効果的な活用方法を全教職員で共有した。
- 【学校図書館活用年間計画】の作成・活用
各学年・教科等において、学校図書館を活用した授業づくりができるよう作成。教科横断的な学習や探究的な学習に取組み、児童の学力向上を目的とした、より効果的な学校図書館活用となるよう随時計画を見直す。
- 【学校図書館情報活用能力指導體系表】の作成・活用
情報活用能力の育成に向けて、情報利用のプロセス（課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現・発信）を軸に作成。この体系表を基に「学習の記録」として、活用した教科・単元・学習時期・活動内容・指導の留意点・思考ツール・評価方法を、活動の様子を撮影した写真と一緒に記録し、保存する。
- 【レファレンスシート】の作成・活用
教員と学校司書、双方向のコミュニケーションのきっかけとなり、授業活用に即した、単元のニーズにあった図書資料活用の支援につながるよう作成。今年度から「図書資料の記録」といっしょに保存し、次回の学習や今後の選書に活用する。

「本に親しむ場づくり」

- 【館内・校内整備】
 - ・館内の図書を日本十進分類法に基づいて排架。
 - ・教科書で紹介されている図書と、全国学校図書館協議会選定の図書を必読書とした学年棚の設置。
 - ・児童が興味・関心を持って図書館資料で調べてクイズに答えたり、参加できたりする展示・掲示コーナーを設置。
 - ・「読売KODOMO新聞」の配備。
 - ・PC(情報メディア機器)1台常設。
 - ・全クラスで学級文庫を設置。今年度、蔵書を整理し学年文庫を学年室に設置。
- 【読書リスト】の作成・活用
教科書で紹介されている図書と、全国学校図書館協議会選定の図書を必読書とし、学年ごとに作成。読みたい図書や普段自分では選ばない図書との出会いに役立て、リストの図書が読めたら、読んだ日付と感想を記録として残す。
- 【新聞スクラップ】の作成
読売KODOMO新聞に掲載されている様々なニュースに触れ、スクラップ作りを通して、「読み取る力・考える力・表現する力」の育成をめざし、高学年で実施。成果物は学校図書館前に掲示し、校内に発信。



取組みを通しての子どもの変容

- ・「わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネットなどで調べている」と答えた児童数が増加した。（75%⇒82%）
→取組みを通して、児童が「調べたい」と思った時に、課題解決のために必要な図書館資料やweb資料を自分の力で探すことができるようになった。
- ・「学校図書館での学習や、本や資料を使って調べることは楽しい」と答えた児童数が増加した。（78%⇒87%）
→学校図書館を活用した授業では、児童の主体的に考えを深める姿、資料や友だちと対話し意欲的に取り組む姿が多く見られるようになった。